

十一月十四日

阪大院生命機能研究科よりメール。研究会に参加しろとの事。私の方も学部再編で生命工学とのジョイントを考えていたので、参加してみることにした。無駄と遊びがテーマのようだ。来年の一月に三日程石川県の片山津温泉で開かれるというのも良い。技術と歴史研究会も是非そういう風に湯煙り感覚で願いたい。二三日のサンデーレクチャーが近附いた。準備しなくては。「生きる為の家」をテーマにしよう、素材としてはマザーテレサの死を待つ家。室内原稿書く。十五時李祖原講義ONENESS。彼が真摯に話せば話す程に、西欧化してしまった私達にはミステリアスになる事が不思議である。李祖原とのコラボレーションレクチャーを考えてみよう。李祖原と研究室を共にしている今は千戴一遇の時であるのを自覚したい。

十一月十五日

聖徳寺がいよいよ完成真近となる。富士山の裾野という稀有なロケーションで、建築及び墓地を考え、デザインできたのは楽しかった。オウム真理教事件の震源地であった上九一色村を舞台に様々な事を考えた。それが一つの建築になり、墓地のデザインになった。仕上げをこころうじろ。

十三時森川・デービットと世田谷村二期工事の打合わせ。夏から初冬にかけて仕事場を大学に移したが、そろそろ世田谷に戻ら

ねばならない。やはり大学という場所はモノ作りには少々辛いものがあるのを実感出来たのは良かった。村のスタッフも何だか精気が失われている。近代（モダニズムのデザイン）が歴史的対象として眺め得る時代になっているのを痛感する。現代という時間的空間が存在するとすれば、その観点の浮上という事実しか無いだろう。十六時五反田TRC、トモ・コーポレーション社長友岡氏と打合せ。東京湾埋立地の倉庫計画について。打合わせ中にアイデアが出たので、やってみましょうと宣言してしまう。某ゼネコンがつまらぬ案と下らない見積り書を作成しているのだが、それは実に下らぬ案で、社会的にも向の価値もない。来週、私の案を示す事になる。二十二時過京王線で烏山に向っている。世間の常識と闘い過ぎて、イケナイっていうのは解っているが、世間の常識が余りにも馬鹿気ているのが歴然としているのは黙って見過す訳にはいかないのだ。トモ・コーポレーションでアジア全域の手作りペーパーを詳細に見る事が出来たのも収穫であった。